

★ 問題解決的な学習を中軸とした授業の充実 【授業づくりの6つのポイント】



※ P. () は「【参考資料】確かな学力の向上のために 平成29年度版」との関連です。

ポイント1 単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫

P.3
P.4

- 学習指導要領を基に単元のねらいをとらえ、系統性や関連性等のある単元を構想しているか。
- ◎ 単元のねらい（単元の学習内容や育てたい資質・能力）をとらえ、単位時間ごとの学習内容を明確にすることにより、系統性や関連性等のある単元を構想する。
- 普段の授業や各種調査から単元展開や授業に生かせる実態把握を行っているか。
- ◎ 各種調査やアンケート等の分析、一人一人の学習に対する取組や予想されるつまずき、小学校、中学校、高等学校の系統性をとらえて、単元構成や授業に活用できる実態把握を行う。
- 目指す子どもの姿を具体的にとらえ、次の指導に生かせる評価計画を立てているか。
- ◎ 単元や単位時間のねらいを明確にすることにより、目指す子どもの姿を具体的にとらえ、いつ・何を・どのように評価するのかをあらかじめ設定する。

ポイント4 思考を促し、見取り、生かす教師の働きかけの充実

P.11
P.12

- 考える視点や方法、手がかりを一人一人にもたせるとともに、思考を促す発問を行っているか。
- ◎ 考えをもたせるきっかけを与え、どの子どもにも課題の意味や発問の意図が十分に伝わるようにする。
- ◎ 子どもの考えを揺さぶったり、矛盾や対立、葛藤を生みだしたりする発問を使って、子どもたちの思考を促す。
- 適切に子どもの学習状況等を見取り、本時における次の授業展開に生かしているか。
- ◎ 見取る場面と観点を明確にした上で、机間指導等を通して学習状況を把握し、発表順序や発問等を工夫して授業展開に生かす。
- 一人一人の学習状況を把握し、個に応じた適切な支援の手立てを講じているか。
- ◎ 子どもたちの活動や発言、ノートへの記述等の様々な機会をとらえて、一人一人の学習状況を的確につかみ、個に応じた支援、よさを生かす支援等を行う。

ポイント2 ねらいからまとめまでの整合性を図り、子どもの思考を大切にしながら、目指す子どもの姿と手立てを明確にした授業の設計

P.5
P.8

- 単元の構想を踏まえ、ねらいからまとめまでの整合性を図っているか。
- ◎ 単元構想と本時の目標、本時の課題、学習活動・内容、学習評価、まとめまでのつながりにぶれが生じないように、これらを行きつ戻りつしながら授業を具体的に設計する。
- 子どもが自ら解決に向けて取り組むための具体的な手立てを講じているか。
- ◎ 各学習活動で目指す子どもの姿を明らかにして、その具現のためにどのような手立てが必要なのかを明確にする。
- 子どもの思考の流れを想定した構造的な板書計画になっているか。
- ◎ 子どもの考えや関連、変化を予想したり、板書内容の配置や矢印、線囲み等による表し方を想定したりして計画する。

ポイント5 思考の共有と吟味を促す学び合いをコーディネートする力の向上

P.13
P.14

- 思考の共有と吟味を通して、子どもが新たな考えをつくり出せるような学び合いをさせているか。
- ◎ 学び合いを通して目指す子どもの姿を具体的に想定する。
- ◎ 学び合いを可視化・活性化するために、板書やホワイトボード、付箋、思考ツール等を活用する。
- ◎ 一人一人の子どもの考えを的確に見取り、共有や吟味を図るための手立てを具体的に示す。
- 学び合いの目的を踏まえたコーディネートを工夫しているか。
- ◎ 子ども同士が学び合いの目的を共有し、一人一人が自分の考えをもって取り組めるよう働きかける。
- ◎ 子どもの考えをつなぎ、深め、広げる「言葉かけ」や、考えの取り上げ方等を工夫する。

ポイント3 必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決への見通しをもたせる工夫

P.9
P.10

- 子どもにとって考える必然性があり、解決への意欲が高まる学習課題を設定しているか。
- ◎ 資料の提示や活動の設定等の工夫により、子どもの「問い」を引き出す。
- ◎ 子どもの「問い」を学習課題につなげる発問を工夫する。
- 子どもが自ら解決の見通しをもてるように、めあてを把握させ、解決の方法や調べる視点等をもたせているか。
- ◎ すること・考えることを具体的に理解できるように、発問や指示を工夫する。
- ◎ 既習事項や生活経験を基に答えを予想し、解決の方法や視点をもつように働きかける。
- ◎ すべての子どもがめあてを把握し、解決の見通しをもっているかを適切に見取る。

ポイント6 学習内容の定着を図る「振り返る活動」

P.15
P.16

- 課題との整合性を図り、本時に身に付けさせたいことをまとめているか。
- ◎ めあてとまとめの文脈がつながるように意識して、子どもたちの言葉を使ってまとめを行う。
- 学習内容の再生の場やねらいに合った適用問題を設定して、学習内容の定着を図っているか。
- ◎ 学んだ知識や技能を活用して、書いたり話したり問題を解いたりする活動を位置付け、学習内容が子ども一人一人のものになっているかを確認する。
- 自己の変容や成長を自覚させることにより、充実感や満足感を味わわせ、次の学習への意欲を高めているか。
- ◎ 学習感想や学習日記を書かせる際に、自己の変容をとらえる視点を明確にもたせ、よさや成長を自覚させているか。
- ◎ 自己評価や相互評価を学習過程に効果的に位置付け、自分のよさや進歩を実感させているか。